

60297

教科書文庫

6
720
34-1950
01304 49956

Kodak Gray Scale

C Y M

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

inches
cm

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



文部省検定済教科書

小学書方

三年

東京春陽堂發行

10 春陽 小国334

広島大学図書
0130449956

11KC4
Sh996

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

中中図書館

教科書文庫

6

720

34-1950

0130449956

広島大学図書

0130449956



贈
寄

昭和二十五年 月 日 文部省検定済
小学校国語科用

方
書
志
小
学
三
年



廣島大學
教育學部圖書

東京 春陽堂 発行

広島大学図書

0130449956



ま え が き

一、この本は、皆さんのために、正しいよい字が書けるように考えてつくったものです。

二、次のことに気をつけて練習しよう。

(1) しせい、えんぴつの持ちがたに気をつけましょう。

(2) 上のせつめいをよくよんでから書きましょう。

(3) 一度書いたなら お手本の字とくらべてみて また書きましょう。

(4) 上のせつめいを読んで やってみたいことがあったら、書いてみましょう。

三、少しずつでも、たびたびけいこすれば、それだけじょうずになります。毎日つづけてけいこしましょう。

四、字は心の鏡です。字をみればその人がらがわかるといいます。心をおちつけてけいこしましょう。

も く じ

一	三年生になって	十六	秋の虫
二	名まえのかき方	十七	えんそく
三	詩しゅう	十八	黒板にかく
四	字のかき方	十九	作文のかき方
	じゅんじょ	二十	おち葉の おどり
五	手がみのたび		
六	えん筆の つかい方	二十一	車しらべ
七	おつかい	二十二	漢字の形
八	七夕	二十三	書きぞめ
九	海べ	二十四	かるた
十	学級日記	二十五	ラジオをきく
十一	夏	二十六	役にたつ動物
十二	え葉書	二十七	せつぶん
十三	え日記	二十八	一週間
十四	水のはたらき	二十九	スケート
十五	字のかき方	三十	春をよぶ

一 三年生になって

わたくしたちは、あたらしい三年生になりました。一年・二年のおとやいやいもうとが出来ました。教室がかわりました。本もちょうめんもあたらしくなりました。

楽しく学校へ、みんなそろって出かけましょう。

○がばんの中は、きちんと本やちょうめんがそろっていますか。

○ぶで箱の中のえん筆はけずつてありますか。けしゴムが入っていますか。

自分でそろえて入れましょう。

楽 白、六

筆 竹、三

あたらしい三年生。

楽しい、がっこう。

本を、そろえる。

えん筆を、けずる。

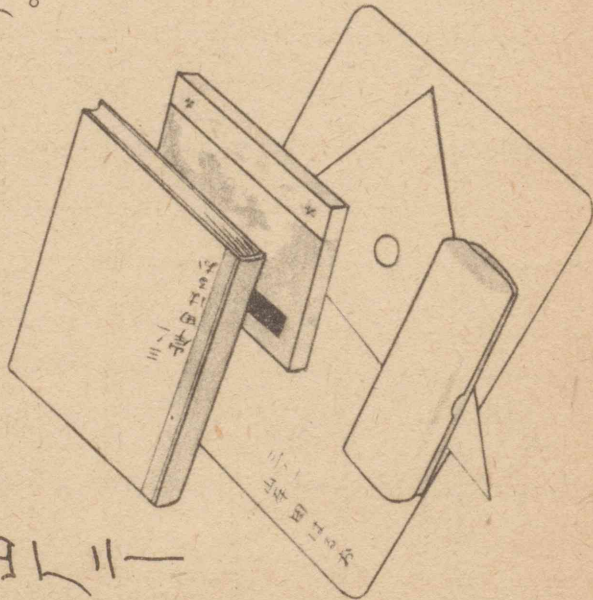
二 名まえのかき方

ノートや本のうらに、じぶんの名まえを 書きましよう。

字の大きさ

書くばしよ

などに気をつけて、ていねいに書きましよう。



岸田 和子

和子

○自分の くみと なまえを 書きましよう。

		岸	田	は	る	お。		和	子。	
		山	川。	土	田。	春	子。			
		は	き	り。	正	しく。				
（かみくみ）										
（なまえ）										

三 詩しゅう。

- ぼくたちのまわりをみまわして、気がついたことを、詩にかいてみよう。
- そしてできるだけすきな詩をたくさんあつめてみよう。
- あつまったら一冊の本にまとめてみよう。

たのしい小道

いつも通るこの小道

たのしい小道だ

ひとりで通るときも

みんなが通るときも

たんぽぽがさいっていたり

すみれがさいっていたり



詩 言フニ、

通 マルニ、

たのしい小道。

いつも通る、この小道。

たんぽぽのさいた道。

やさしい花よ、春の道。

すみれ花。詩をつくる。

四 字の書き方じゆんじよ

字のかき方には、それぞれきまつたじゆんがあります。

一 上からじゆんにかく。

花 一 一 イ 一 一

葉 サ 一 一 一 一 ホ

二 左からじゆんにかく。

北 一 一 一 一 一

羽 一 一 一 一 一

三 字かくの数。

三かく 女 く 一 一

四かく 口 一 一 一 一

四かく 王 一 一 一 一

五かく 友 一 一 一 一 一

五かく 右 ノ 一 一 一 一

六かく 左 一 一 一 一 一

六かく 名 ノ ノ 一 一 一 一

色 ノ ノ ノ 一 一 一 一

七かく	足	走	声	返	麦	車	弟	赤	豆
六かく	名	耳	羽	竹	色	糸	西	先	次
五かく	田	世	生	右	左	母	主	出	用
四かく	王	戸	友	少	手	日	引	心	円
三かく	川	上	小	女	口	千	三	大	山

五 手がみのたび

手がみがたびをしていくのですが、どんな
じゆんばんに、どこを通過していくのか考えて
みましょう。

1. ゆくさきをむねにかく。
2. 切手をはってもらう。
3. ポストに入れられる。
4. かばんに入れられる。
5. ゆうびんきよくにつく。
6. じょうふなふくろに入る。
7. 汽車につみこまれる。
8. 町のゆうびんきよくにつく。
9. かばんの中。
10. 自転車でばられる。
11. 一けん一けんくばられる。

切	セツノ	町	チヨウ
遠	トホク	私	シ
近	チカク	旅	リョ

ゆ	く	さ	き	は	む	ね	に	書	か
れ	て			切	手	を	は	ら	れ
げ	ん	き	よ	く	出	か	け	ま	す
遠	い	町	に	も		近	く	の	お
う	ち	に	も		私	を	ま	っ	て
い	る	人	が		い	る	の	で	す

七夕

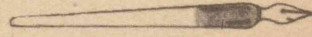
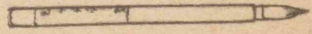
七月七日は七夕さまです。竹をきって、おりがみでいろいろなものをつくらせて、つけます。昔から、この日の朝つゆをとって、すみをすり筆で字をかいて、七夕さまにおねがいすると字がじょうずになるといわれています。

字には

筆でかくもの

ペンでかくもの

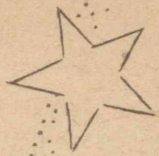
えん筆でかくもの



がありますが、私たちも、いろいろ書いて、七夕さまをかざりましょう。



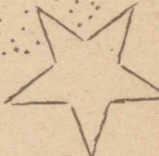
七夕さま



天の川



銀の川。
星の国の
おひめ様。



字を正しく。
きれいに。

九海 べ

○えをかいて、詩をつけてみよう。

○かいたえをこわさぬように ちらして書き入れよう。

海 べ

がけの下には

白いはま

白いはま

あみひく人の

黒いかげ

黒いかげ

島をとりまく

青い海

青い海

きてきも鳴らさず

船がいく

がけの下には白いはま

あみひく人の黒いかげ

島をとりまく 青い海

きてきも鳴らさず 船がいく。

十 学級日記

いけださんの組では学級日記をつけています。

その日その日にあつたおもなことを、まとめて書いてあります。

「今日は夏休みに何をするか話しあいました。

たがきくんの え日記

たなかくんの 子どもしばい

ささきくんは 星のおしらべ

いとうくんは 海の作文

いのうえさんは こどばあつめ などと話し
ていました。」

わたくしたちも、きれいな字で書いてみましょう。

記 ミヨコ	休 イノ	作 イノニ
子 アノ	星 ロニ	曜 ヨノ
夏 ナリク	海 シノ	晴 ニノ

◆ 学級日記 (三の一) ◆

七月六日 土曜 晴

今日は夏休みに何をするか
話しあいました。

ささきくんは 星のおしらべ。
いとうくんは 海の作文。

いのうえさんは こどばあつめ。
などと話し合いました。

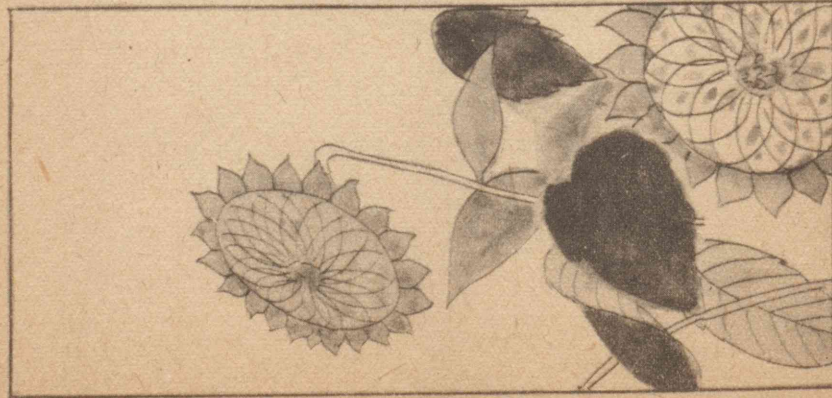
十一 夏

キラキラとまぶしい太陽が木のかげをつくっている。せみのこえをききながら、木かげで、ありの働くようすをみていたつとむくんが急に

「ああ、あついなあ」

と、いって、あせをふいた。あつい夏。ひまわりもくびをかしげて、お水がほしそうだ。明日の木曜は海に行くのでたのしみだ。

働 イロニニツノ
急 クニニ



キラキラと、まぶしい
太陽が木かげをつくる。

ありは、せつせと働いて、
冬のよういをする。

明日の木曜は、海に行く
のでたのしみだ。

ひまわりは、夏の花。

十二 えはがき

- いなかへいった時や出かけたところの思い出に、けしきをスケッチしてえはがきをつくらしてみよう。
- そして家の人や友人に出してみよう。
- 行ったところのようすをそのままはつきりわかるように書こう。
- よんで下さる方の気持ちになって、ていねいに書きましょう。

おかあさん

とてもいけしきです。

にさんと二人でやると

てぶんまでのほりました。

げんきです。

七月二日

ふるぎ山にて

じろう

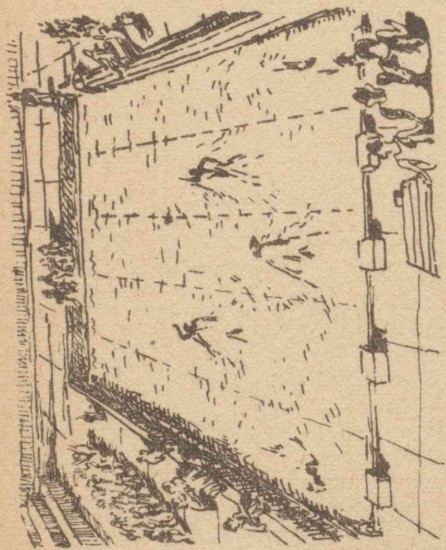
○ はがきにえをかいて、そして文を書きましょう。

十三 え日記

八月十一日 (火)

今日はとてもよいお天気だった。

あまりあついたので、プールへ



およぎにい
た。みんなバチャ
バチャとしぶき
をあげて、面白
そうにおよいで
いた。ぼくも
クロールでがん
ばった。

だいぶおよげるようになった。
二十五米はじしんがった。

水く

友た

太た

泳う

犬いぬ

陽ひかり

え日記 月 日 ()

プールへおよぎに行く。

しぶきをあげてすすむ。

空からとりつける太陽。

十四 水のはたらき

水のはたらきをしらべよう。

つかいみち

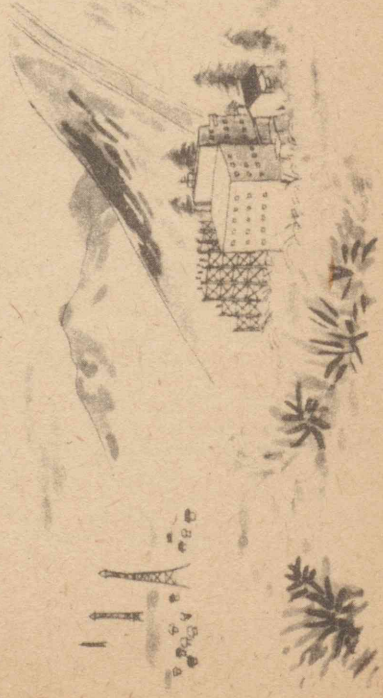
- 1. みずまき。
- 2. ふんすい。みずでっぼう。
- 3. たうえ。
- 4. のみみず。
- 5. いなかの水車。
- 6. 発電所。

発スルニル

電所ニ見

所ヨリ

車ヨリ



水のはたらきは大きい。

ちよろちよろと流れる、

水もあつめれば大きい。

発電所、水道、井戸、

水をたいせつにしよう。

十五字のかけ方

漢字をよくみてごらんなきい。

- (一) よこかく 一
 - (二) たてかく 丨 丨
 - (三) ななめのせん ノ ヨ ヌ
 - (四) てん 丶 丶 丶 丶
 - (五) まげ方 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ
 - (六) はね方 丿 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃
 - (七) くみあわせ 二 冂 口
- (一)から(四)までのくみ合せ

などがあつまってできています。

(一) (二) (三) をつかって出来るもの。

十・上・土・川・今・作

(四) (五) (六) をつかって出来るもの。

手・兄・心・見・気・月

(七) をつかって出来るもの。

来・星・門・風・事・合

上		下十		左			丈		
一	二	一	一	ノ	ノ	ノ			
丶	丶	ノ	ノ						
				ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ		
				丿	㇀	㇁	㇂	㇃	
眼	語	花	行	他	間	貝	光	始	思

十六 秋の虫

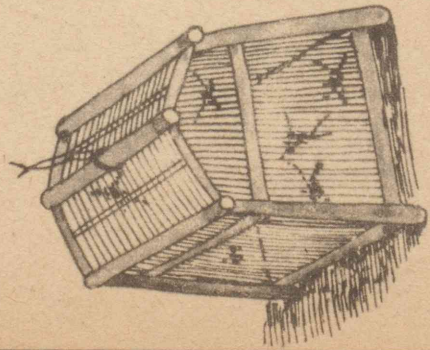
秋の虫はいつなくのてしょう。

○ 夜なく虫

- すずむし リーン、リーン。
- まつむし チンチロリン。
- うまおいむし スイッチヨ、スイッチヨ。
- くつわむし ガチャ、ガチャ、ガチャ。
- えんまこおるぎ コロ、コロリーリ。
- みつがどこおるぎ リリ、リリ。

○ ひるなく虫

- きりぎりす ギースツチヨン。
- ささきり ザリ、ザリ、ザリ。
- しやうりようばった キチ、キチ、キチ。
- くさひばり チリ、チリ、チリ。



Handwritten practice lines on page 35:

- すずむし リーン、リーン。
- まつむし チンチロリン。
- うまおいむし スイッチヨ。
- くつわむし ガチャガチャ。
- えんまぎ コロコロ。

十七 えんそく

青い空 白い雲

あの山 あの森

うれしいな

きょうはたのしい

えんそくだ。

山の風 秋の風

ぼくらのほおにつめたいよ

げんきにそろって

のぼろうよ。

○えんそくの思い出をまとめてみよう。

○詩しゅうの中に、書いていれよう。

森 ナノキ

雲 クミ

秋 アキ

風 カゼ

たのしい秋のえんそく。

青い空、白い雲、あの

山、あの森、うれしいな。

たのしい、えんそく。

山の風、秋の風、ぼく

らのかおにつめたいよ。

げんきにのぼろう。

十八 黒板に書く

- 教室のうしろの黒板に、くみの人
のきぼうが書いてある。
- チヨークで、はっきりとみんなに
わかるように書いてある。
- みんなと話しあつて、書く人の番
をきめて書くけいこをしよう。

十月二日

一、もうすぐお楽しみ会を
しますから出たい人はき
ぼうを書いて出して下さい。
(プログラムがかり)

二、ポスターをわすれずに
出して下さい。
(としよがかり)

十月二日 月よう 晴

一、もうすぐお楽しみ会をし
ますから出たい人はきぼうを
書いて出して下さい。
(プログラムがかり)

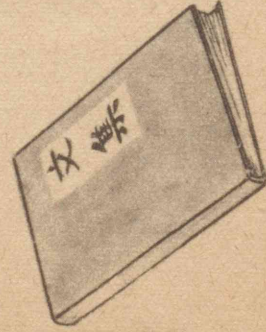
二、ポスターをわすれずに出して
下さい。
(としよがかり)

十九 作文のかき方

- 一、どんな文を書くか考える。
- 二、どんなじゆんじよにかいていくかまとめてみる。
- 三、大体考えられたら次のようなことにちゆういしてかく。
 1. 一字一字ていねいに。
 2. だいは少しきげてかく。
 3. かきはじめは一字きげて。
 4. 点やまるは、ますを一つとる。
 5. ことばのかっこは、かぎのかたちに「」をかいて一ますに入れる。

母 くうい

妹 くしん水



運動会

青くはれた空。今日は運動会です。ぼくはうれしくてたまりません。「いつてまいりませす。」と大きなこえていつたので、お母さまがにこにこしていらっしやいました。

二十一 車しらべ

ある日 しげるくんとまさ子さんと二人で町の四つかどで、通る車をしらべてみた。二人でかぞえた車のがずは、つぎのようだった。

私たちも やってみよう。

○まず小さな手ちょうに、通ったがずをかぞえて、書いておいて、しらべおわったら、二人であわせてみる。

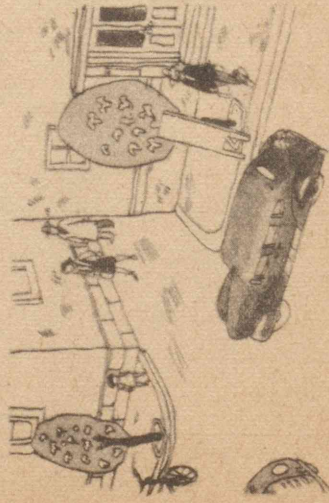
○二人のを合せて出た数を、

おおい方からじゆんに

書いておく。

数 米女と父

動 豆とア



	なまえ	数
1	自てん車	百五十台
2	自動車 (タクシー)	五十台
3	自動車 (トラック)	四十五台
4	オートバイ	二十一台
5	リヤカー	十三台
6	馬車	十一台
7	牛車	十台
8	人力車	五台

二十二 漢字の形

かん字の形は、いろいろあります。

光

○上のように入ったり

波

○上の波のように入ったり
す。

山

○右の(つくり)と、左の(へん)とが

手

波

上の波のように入っているのがあります。

○こみ入った字ほどかくがおおくなります。

○わたくしたちもしらべて書いてみましょう。

十二かく	筆	無	答	雲	朝	番	菌
十一かく	祭	野	黒	黄	週	鳥	魚
十かく	帰	配	馬	書	家	流	高
九かく	重	海	秋	乘	美	活	風
八かく	波	取	雨	夜	門	学	画

二十三 書きぞめ

お正月には、昔から二日の日に書きぞめということがあります。

自分のすきな、ことばや文をえらんで、大きな紙に、墨をすって筆でかいたりしました。私たちもえん筆で自分のすきなことばや文をえらんで、すんだ気持で書いてみましょう。

はつ日の出

元日 三年 山本和一

美しい心

元日 三年 平田よし

よいことよ、よいことば。

山本和一

今年も、げんきで。高子

自分のことは自分で。

田中よし子

二十四 かるた

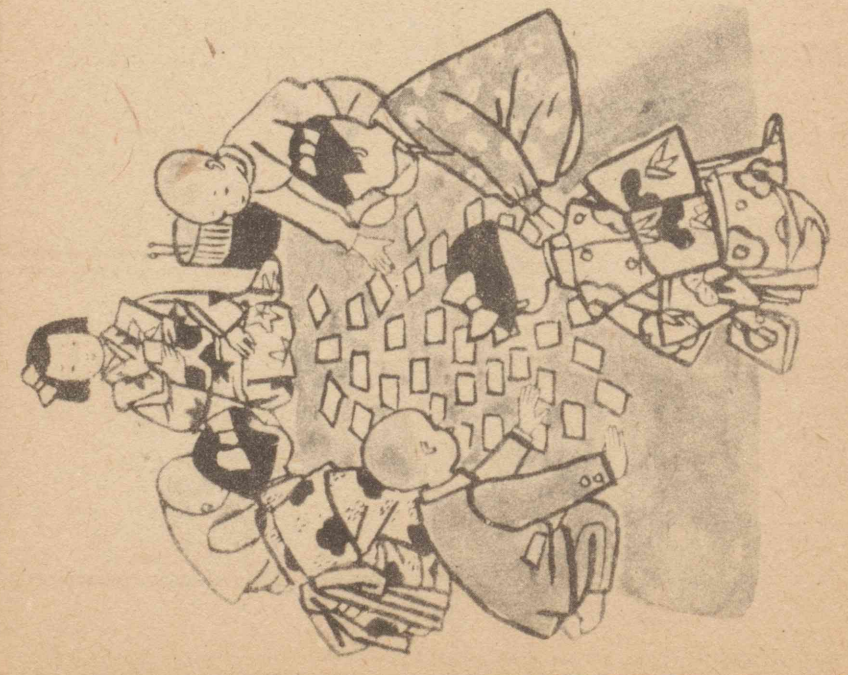
いろはがるたをつくりましょう。

いつもにこにこわらってる。

ろばたでおはなししている子。

はつきりいう子はよい子ども。

にこにこがおのえびすさま。



① くつねたら
お正月

② ろばたで
お話しして
いる子

③ はつきり
いう子は
よい子ども

④ にこにこがおの
えびすさま

二十六 役に立つ動物

たかおくんのくみで 役にたつ動物についてしらべた。みやすいように、表につくってみた。

わたくしたちも、しらべて表をつくってみよう。

- はじめにしらべる動物のなまえをあげて、下の表のように、左の方にかき、役にたつことを右にかく。
- 役にたつことは、なるべく、ことばをまとめて書き入れる。

皮 又 馬 点

番 斗 命 毛 三 し

動物の名	役にたつこと
牛	にくをたべる。皮をつかう。
	ミルクをとる。車をひく。
	はたらく。
ぶた	にくをたべる。皮をつかう。
ひつじ	毛を毛糸にする。
馬	のりものにつかう。
	はたらく。
犬	家の番をする。
にわとり	たまごをたべる。
	にくをたべる。
あひる	にくをたべる。

二十七 せつぶん

二月のせつぶんには、豆まきをします。豆をいっぺんにいれ「おにはそと、ふくはうち。」と、大ごえでさげびます。

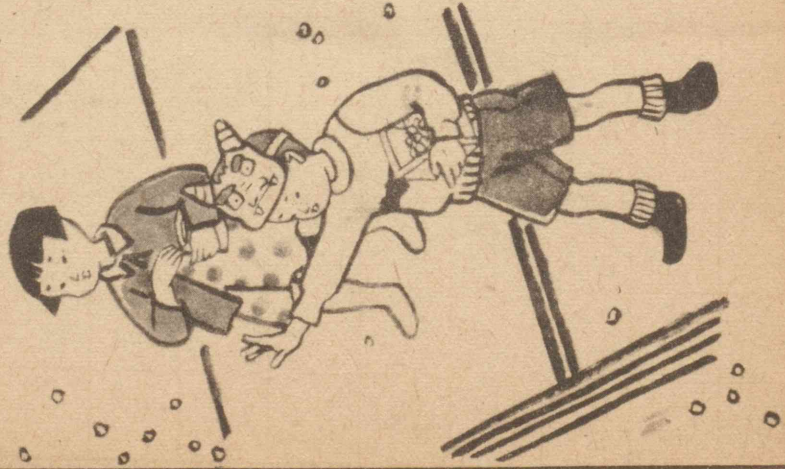
パラパラと豆がおちるのを私たちは喜んでひらいました。

私は十

弟は八つ

妹は五つ

年のかずだけいただくのです。



せつぶん 豆まき遊び。

赤おに、青おに、面。

おにはそと。ふくは内。

年のかずをひろう。

二十八一週間

日。月。火。水。
木。金。土。

七つの日をじゅんぐりに送って、
一週間がまわってくる。七つの名は
ふしぎな名だ。みんな大切なものの
名だ。

- どうしてこんな名がついたか。
- しらべてみるとおもしろい。
- 一年にだいたいどのくらい週があるか、かぞえてみよう。

予予

勉 勉

定 定

週 日 週

日曜の予定をたてよう。

おてつだいとおそうじ。

勉強とじぶんのしごと。

月曜からはじまる学校。

日 月 火 水 木 金 土 週 予 定

二十九 スケート

灰色の空、あつい氷、すべった後にいくつものすじが、走っている。手をつないで、気持よく、すうーとすべる。たのしいスケート。ぼくのフォームは大ぶおちついてきたと、おかあさんが、おっしゃった。兄さんが大まわりをして、ポケットに手を入れたまま、からだの調子をとっている。



灰 空
氷 氷
寒 寒
調 言

灰色の空、あつい氷。

たのしい、スケート。

いく本もの白いすじ。

手をつないですべる。

からだの調子がよい。

三十 春をよぶ

おうい

おうい

ホーホケキヨ

ホーホケキヨ

どこかで、だれかが呼んでいる。
きこえるよ、ね。耳をすますと、
歌ってる。春の合唱。

三年生よ さようなら。

やがて 四年生になりますと

だれかが よろこび 歌ってる。

きこえるよ、ね。

たのしい春をよぶ歌が。

歌 可々人 唱 口と白

どこかでだれかが呼んでいる。
きこえるよ、ね。
歌っている。春の合唱。

三年生よ さようなら
やがて 四年生になりますと、
だれかが よろこびうたってる。

10
春陽

小国 334

昭和二十五年 月 日 印刷
昭和二十五年 月 日 発行

小学書き方(三年)

総頁 六四頁
定價 円

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE)

著者 西 脇 吳 石
代表者

東京都中央区日本橋通三丁目八番地

発行者 株式会社 春 陽 堂

代表者 和 田 欣 之 介

東京都板橋区志村町五番地

印刷者 凸版印刷株式会社

代表者 原 喜 平

東京都中央区日本橋通三丁目八番地

発行所 株式会社 春 陽 堂

電話日本橋〇〇五一・四八四八

振替東京一六一七番

本書の著作にあつた人

東京学芸大学教官	西 脇 吳 石
同	栗 原 静 一
同	櫻 場 一 雄
同	木 島 孝 治
同	武 藤 重 子
同	龜 岬 嘉 子
表紙	倉 田 三 郎
挿 絵	石 井 政 明 雄

広島大学図書

0130449956

